

六条大麦有望系統「関東皮 102 号」について

1 来歴

- (1) 育成地 国立研究開発法人
農研機構 次世代作物開発研究センター（旧作物研究所）
- (2) 交配組み合わせ 「関東皮 86 号」（後の「カシマゴール」）×「関東皮 74 号」

2 特徴

- (1) 主に麦茶用として利用が期待される六条大麦である。
- (2) 近年、本県においても被害が拡大しているオオムギ縞萎縮病に抵抗性（Ⅰ型～Ⅲ型）を持つ。このため、「すずかぜ」（Ⅰ型には強いがⅡ、Ⅲ型には弱い）に比べ、安定生産が期待できる。
- (3) 早生であり、「すずかぜ」に比べ出穂期で 6～7 日、成熟期で 2～3 日早い。
- (4) 穂数は多く、千粒重は重く、整粒歩合が高く（篩下が少ない）、収量は多い。
- (5) 外観品質は「すずかぜ」に比べ良好である。
- (6) 麦茶への加工適性について、実需者による簡易焙煎試験を行ったところ、概ね良好な評価であった。

表 奨励品種決定調査結果(平成27～28年播の平均)

品種 系統名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	千粒重 (g)	整粒重 (kg/10a)
関東皮102号	4/5	5/20	100	3.8	597	31.7	70.8
すずかぜ	4/12	5/23	82	4.1	489	29.1	58.6

注)整粒重は2.0mm篩選による



「関東皮 102 号」の粒



「すずかぜ」の粒

3 平成 29 年播(平成 30 年産)の取り組み

奨励品種決定現地調査（2 年目）を県内 2 カ所で開催し、現地適応性を検討中である。また、麦茶の加工適性について、実需者が実際使用している機械で焙煎試験を行うための麦を現地で栽培中（1ha）である。